音楽療法士学科 実務経験のある教員による授業科目一覧

医療職業実践専門課程										
音楽療法士学科　※授業1単位＝15時間、実技・演習1単位＝30時間、技能・実習1単位＝45時間										
科目名			授業分類			授業時間数				単位
			講義	実技	実習	1年次	2年次	3年次	計	
音楽療法分野	必修理論	音楽療法概論	○			30			30	2
	必修基礎	音楽療法の諸理論	○				30		30	2
		音楽療法の研究	○					30	30	2
	必修臨床	音楽療法各論Ⅰ	○			30			30	2
		音楽療法各論Ⅱ	○				30		30	2
		音楽療法各論Ⅲ	○					30	30	2
	必修技能	技能Ⅰ		○		45			45	1
		技能Ⅱ		○		45			45	1
		技能Ⅲ		○			45		45	1
	必修演習・実習	実習Ⅰ			○	30	30	30	90	2
		実習Ⅱ			○		45	45	90	2
		実習Ⅲ			○			90	90	2
	必　修	卒業論文	○					60	60	4
合　　計						180	180	285	645	25

※「選択」は日本音楽療法学会で示された科目内で、本学で開講している必修授業を表す

成績の評価及び履修認定について

（授業科目履修の認定に係る学則）

第 23 条　授業科目の履修に関しては、授業時間数の３分の２以上出席し、試験に合格した者に、所定の単位を与える。ただし平素の学習状況又は論文等をもって試験に代えることができる。

2　試験の成績の評価は、秀、優、良、可又は不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。

3　前項の秀は 90 点、優は 80 点、良は 70 点、可は 60 点割を基準とし、総合的な評価を行なう。

（GPA の導入について）

GPA（Grade Point Average）とは、履修した科目１単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目１単位あたりの成績平均点を算出する。計算結果は小数点以下第３位を切り捨てして表記する。

1　成績評価の適切な取組の概要

成績評価については、「秀(90点)、優(80点)、良(70点)、可(60点)、不可」の５段階で評価し、可以上で合格となる。また，GP（Grade Point）としては、「秀は4.0、優は3.0、良は2.0、可は1.0、不可は0.0」とする。

GPA 算出式

$$\mathrm{GPA} = \frac{\text{（履修科目の単位数×ポイント）の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

2．ＧＰＡの種類

GPA は年度ごとに算出したもの（年度GPA）、入学時から現在の学期まで通算したもの（累積GPA）があり、その計算方法は次のとおり。

①年度GPA

当該年度に履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出する。

②累積GPA

入学時から現在の学期までに履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を入学時
からの履修総単位数で除して算出する。

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽通論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	発達障害児への個人音楽療法　9年						
	障害者支援施設での集団音楽療法　3年						
	ピアノ・音楽基礎指導歴　20年　　医療機関受付・事務歴　20年						
実務経験と授業	ピアノ、音楽基礎指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な音楽の基礎知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	201教室		
	後期	木曜日　1時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽の基礎的理論を繰り返し学習し、幅広い知識と応用力を身につける。	筆記試験、授業態度、進度等から総合的に評価する。
	教科書
授業の進め方	音楽通論
講義、または演習	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	授業概要
第2回		第2回	音名
第3回		第3回	音の長さ
第4回		第4回	音の高さ
第5回		第5回	記号
第6回		第6回	音程
第7回		第7回	音程
第8回		第8回	音程
第9回		第9回	音階
第10回		第10回	音階
第11回		第11回	音階
第12回		第12回	関係調
第13回		第13回	関係調・移調
第14回		第14回	移調
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	鍵盤和声	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法 2年 特別養護老人ホームでの音楽療法 6年						
実務経験と授業	音楽療法の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な技術を養う						
学期区分	前期			講義室等	201教室		
	後期	水曜日 2時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
コードネーム、基本形・転回形、和音の機能、和声進行、和音の配置などについて学ぶ	課題、試験
	教科書
授業の進め方	歌伴のすべて
講義、コードで実際に演奏する実技も含める	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	メジャーコード①
第2回		第2回	メジャーコード②
第3回		第3回	メジャーコード③
第4回		第4回	マイナーコード①
第5回		第5回	マイナーコード②
第6回		第6回	マイナーコード③
第7回		第7回	オンコード
第8回		第8回	7th
第9回		第9回	diminish
第10回		第10回	augment
第11回		第11回	sus4
第12回		第12回	和音の度数とその機能
第13回		第13回	Low Interval Limit
第14回		第14回	コード伴奏①
第15回		第15回	コード伴奏②

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽心理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　11年、音楽療法センターでの個人音楽療法　2年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等						
実務経験と授業	音楽療法の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な技術を養う						
学期区分	前期	月曜日　2時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
音や音楽が人の心に与える影響を知る 様々な音の特性、音楽が人間に及ぼす力を学ぶ	課題レポート
	教科書
授業の進め方	心を動かす音の心理学
講義で知識を深めるとともに、実際に体験し音楽の身体的・心理的作用等を実際に体験する。	参考書
	音楽行動の心理学

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	音楽の起源①	第2回	
第3回	音楽の起源②	第3回	
第4回	音楽の起源③	第4回	
第5回	音楽の社会心理学①	第5回	
第6回	音楽の社会心理学②	第6回	
第7回	音楽の社会心理学③	第7回	
第8回	音楽と感情	第8回	
第9回	音楽と脳	第9回	
第10回	音楽とストレス対処	第10回	
第11回	同質の原理①	第11回	
第12回	同質の原理②	第12回	
第13回	BGMの効果①	第13回	
第14回	BGMの効果②	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	西洋音楽史	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 発達障害児への個人音楽療法 9年 障害者支援施設での集団音楽療法 3年 ピアノ・音楽基礎指導歴 20年　医療機関受付・事務歴 20年						
実務経験と授業	ピアノ、音楽基礎指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な音楽の基礎知識を養う。						
学期区分	前期	金曜日 4時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
西洋音楽史全般の大きな流れを知ると共に、時代ごとの特徴について、作曲家・演奏家・または楽器等を通して学ぶ。	筆記試験、授業態度から総合的に評価する
	教科書
授業の進め方	大人の音楽史入門
講義・演習・課題発表	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	古代・中世・ルネサンス	第1回	
第2回	古代・中世・ルネサンス	第2回	
第3回	古代・中世・ルネサンス	第3回	
第4回	バロック	第4回	
第5回	バロック	第5回	
第6回	バロック	第6回	
第7回	古典派	第7回	
第8回	古典派	第8回	
第9回	古典派	第9回	
第10回	ロマン派	第10回	
第11回	ロマン派	第11回	
第12回	ロマン派	第12回	
第13回	近現代	第13回	
第14回	近現代	第14回	
第15回	近現代	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	世界の音楽（旧:日本音楽史）	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院（精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来）での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　11年、音楽療法センターでの個人音楽療法　2年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ（発達障害、失語症、統合失調症）、その他の音楽療法等						
実務経験と授業	音楽療法の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な技術を養う						
学期区分	前期			講義室等	304教室		
	後期	水曜日　3時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
世界および日本のポピュラー音楽、民族音楽について学ぶ	授業態度、課題発表
	教科書
授業の進め方	小学館の図鑑 NEO 音楽
講義、または演習	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	ブルース
第2回		第2回	ジャズ
第3回		第3回	ロック
第4回		第4回	カントリー
第5回		第5回	キューバ音楽
第6回		第6回	ブラジル音楽
第7回		第7回	アルゼンチン音楽
第8回		第8回	ハワイの音楽
第9回		第9回	アフリカの音楽
第10回		第10回	ロシアの音楽
第11回		第11回	アジアの音楽
第12回		第12回	ヨーロッパの音楽
第13回		第13回	日本のポップス
第14回		第14回	民謡
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽基礎理論	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	高木房雄			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	高校教諭一級の資格を有し、以下の実務経験がある。 公立高校音楽科教諭、音楽科専門高校教諭、公立校校長　41年 高校合唱、吹奏楽指導、各種コンクール出場 一般合唱団4団体、声楽アンサンブル、弦楽オーケストラ等を育成指導　52年						
実務経験と授業							
学期区分	前期	水曜日　3時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽の基礎的理論を繰り返し学習し、幅広い知識と応用力を身につける。	筆記試験、授業態度、進度等から総合的に評価する。
	教科書
授業の進め方	
講義、または演習	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	授業概要	第1回	
第2回	楽譜について	第2回	
第3回	音符と休符について	第3回	
第4回	音の長さ	第4回	
第5回	音の高さ	第5回	
第6回	その他の記号	第6回	
第7回	その他の記号	第7回	
第8回	音程	第8回	
第9回	音程	第9回	
第10回	移動ドと固定ド	第10回	
第11回	移動ドと固定ド	第11回	
第12回	移動ドで歌う	第12回	
第13回	音階	第13回	
第14回	音階	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	日本の音楽	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 放課後等デイサービスでの音楽療法　2年 生活介護施設での音楽療法　1年 知的発達障害児への個人音楽療法　2年						
実務経験と授業	音楽療法の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な日本の曲への理解を深め、音楽療法を実践できる力を養う。						
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	月曜日　4時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
明治・大正・昭和の日本の童謡・唱歌、流行歌を知る。 曲にまつわるエピソードや時代背景を学び、セッション現場で使う力をつける。	筆記試験および課題発表、授業態度
	教科書
授業の進め方	歌の宝石箱1・2
テキストに沿って歌唱、季節、対象者、エピソードに視点を持ち展開方法を身につける。	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション 歌の宝石箱1
第2回		第2回	歌の宝石箱1
第3回		第3回	歌の宝石箱1
第4回		第4回	歌の宝石箱1
第5回		第5回	歌の宝石箱1
第6回		第6回	歌の宝石箱1
第7回		第7回	歌の宝石箱1
第8回		第8回	歌の宝石箱1
第9回		第9回	歌の宝石箱1
第10回		第10回	歌の宝石箱2
第11回		第11回	歌の宝石箱2
第12回		第12回	歌の宝石箱2
第13回		第13回	歌の宝石箱2
第14回		第14回	歌の宝石箱2
第15回		第15回	まとめ・発表

授業科目区分	基礎科目	担当科目	編曲	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	3年		

実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院（精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来）での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　11年、音楽療法センターでの個人音楽療法　2年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ（発達障害、失語症、統合失調症）、その他の音楽療法等
実務経験と授業	音楽療法の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な技術を養う

学期区分			講義室等	304教室
	後期	木曜日　2時限	授業形式	講義

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽療法の実習で求められる楽曲のアレンジの手法について学ぶ。	授業態度、出席状況、課題発表
	教科書
授業の進め方	
実技を中心に進める。	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	伴奏パターンについて
第3回		第3回	歌唱活動のためのアレンジ①
第4回		第4回	歌唱活動のためのアレンジ②
第5回		第5回	歌唱活動のためのアレンジ③
第6回		第6回	楽器活動のためのアレンジ①
第7回		第7回	楽器活動のためのアレンジ②
第8回		第8回	楽器活動のためのアレンジ③
第9回		第9回	鑑賞のためのアレンジ①
第10回		第10回	鑑賞のためのアレンジ②
第11回		第11回	鑑賞のためのアレンジ③
第12回		第12回	弾き歌いのためのアレンジ①
第13回		第13回	弾き歌いのためのアレンジ②
第14回		第14回	弾き歌いのためのアレンジ③
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	ソルフェージュⅠ・Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 発達障害児への個人音楽療法　9年 障害者支援施設での集団音楽療法　3年 ピアノ・音楽基礎指導歴　20年　　医療機関受付・事務歴　20年						
実務経験と授業	ピアノ、音楽基礎指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な音楽の基礎知識を養う。						
学期区分	前期	木曜日　3時限		講義室等	201教室		
	後期	金曜日　3時限		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
新曲視唱・視奏、聴音でリズム、音程等の読譜力を身につけ、現場においての実践に役立つ力を養う。	試験および授業の様子、進度
	教科書
授業の進め方	コールユーブンゲン
実技練習・発表	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	授業概要	第1回	新曲視唱・視奏・聴音
第2回	新曲視唱・視奏・聴音	第2回	新曲視唱・視唱・聴音
第3回	新曲視唱・視奏・聴音	第3回	新曲視唱・視唱・聴音
第4回	新曲視唱・視奏・聴音	第4回	新曲視唱・視唱・聴音
第5回	新曲視唱・視奏・聴音	第5回	新曲視唱・視唱・聴音
第6回	新曲視唱・視奏・聴音	第6回	新曲視唱・視唱・聴音
第7回	新曲視唱・視奏・聴音	第7回	新曲視唱・視唱・聴音
第8回	新曲視唱・視奏・聴音	第8回	新曲視唱・視唱・聴音
第9回	新曲視唱・視奏・聴音	第9回	新曲視唱・視唱・聴音
第10回	新曲視唱・視奏・聴音	第10回	新曲視唱・視唱・聴音
第11回	新曲視唱・視奏・聴音	第11回	新曲視唱・視唱・聴音
第12回	新曲視唱・視奏・聴音	第12回	新曲視唱・視唱・聴音
第13回	新曲視唱・視奏・聴音	第13回	新曲視唱・視唱・聴音
第14回	新曲視唱・視奏・聴音	第14回	新曲視唱・視唱・聴音
第15回	新曲視唱・視奏・聴音	第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	ピアノⅠ・Ⅱ（旧:ピアノⅠ）	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 発達障害児への個人音楽療法　9年 障害者支援施設での集団音楽療法　3年 ピアノ・音楽基礎指導歴　20年　　医療機関受付・事務歴　20年						
実務経験と授業	ピアノ、音楽基礎指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な音楽の基礎知識を養う。						
学期区分	前期	木曜日　1時限／2時限		講義室等	201教室		
	後期	火曜日　1時限／2時限		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
ピアノ奏法の基本的なテクニック、表現する力を養い、音楽療法として提供するための多様な表現方法を習得する。	日頃の練習・授業態度・実技試験
	教科書
授業の進め方	ハノンピアノ教本、それぞれの進度の楽譜
個人レッスン	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	授業概要	第1回	後期試験曲選定
第2回	前期試験曲選定	第2回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第3回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第3回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第4回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第4回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第5回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第5回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第6回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第6回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第7回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第7回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第8回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第8回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第9回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第9回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第10回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第10回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第11回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第11回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第12回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第12回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第13回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第13回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第14回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第14回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ
第15回	前期試験曲のレッスン（バロック） 全調のスケールおよびカデンツ	第15回	後期試験曲のレッスン（古典派） 全調のスケールおよびカデンツ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	ギターⅠ（旧:ギター）	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	北沢泰之			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	火曜日　2時限		講義室等	校外施設		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
ギター奏法を基礎から学び、弾き語りができ、音楽療法士試験合格を目標とする。	授業への取り組み度
	教科書
授業の進め方	
弾き語り	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	基礎（構え方、コード、ストローク）	第2回	
第3回	基礎（構え方、コード、ストローク）	第3回	
第4回	基礎（構え方、コード、ストローク）	第4回	
第5回	基礎（構え方、コード、ストローク）	第5回	
第6回	基礎（構え方、コード、ストローク）	第6回	
第7回	基礎（構え方、コード、ストローク）	第7回	
第8回	弾き語り	第8回	
第9回	弾き語り	第9回	
第10回	弾き語り	第10回	
第11回	弾き語り	第11回	
第12回	弾き語り	第12回	
第13回	弾き語り	第13回	
第14回	弾き語り	第14回	
第15回	発表	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	声楽Ⅰ・Ⅱ（旧:声楽Ⅰ）	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	高木房雄			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	高校教諭一級の資格を有し、以下の実務経験がある。 公立高校音楽科教諭、音楽科専門高校教諭、公立校校長　41年 高校合唱、吹奏楽指導、各種コンクール出場 一般合唱団4団体、声楽アンサンブル、弦楽オーケストラ等を育成指導　52年						
実務経験と授業	声楽指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な技術を養う。						
学期区分	前期	月曜日　4時限		講義室等	201教室		
	後期	月曜日　3時限		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
呼吸法および基礎的な発声法を身につけ、より遠くに通る無理のない美しい声を出せる能力を養う。	試験、授業態度
	教科書
授業の進め方	コンコーネ50番、イタリア歌曲集
個人レッスンおよびグループレッスン	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	授業概要	第1回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第2回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第2回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第3回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第3回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第4回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第4回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第5回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第5回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第6回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第6回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第7回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第7回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第8回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第8回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第9回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第9回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第10回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第10回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第11回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第11回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第12回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第12回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第13回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第13回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第14回	発声　コンコーネNo.26～39 イタリア歌曲	第14回	発声　コンコーネNo.40～50 イタリア歌曲
第15回	まとめ	第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	声楽Ⅲ・Ⅳ（旧:声楽Ⅱ）	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	高木房雄			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	高校教諭一級の資格を有し、以下の実務経験がある。 公立高校音楽科教諭、音楽科専門高校教諭、公立校校長　41年 高校合唱、吹奏楽指導、各種コンクール出場 一般合唱団4団体、声楽アンサンブル、弦楽オーケストラ等を育成指導　51年						
実務経験と授業	声楽指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	月曜日　3時限		講義室等	201教室		
	後期	月曜日　4時限		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
発声器官の構造と発声原理を修得し、音楽療法現場等で応用できる豊かな響きのある声と、歌唱法を獲得する。	試験、授業態度
	教科書
授業の進め方	コンコーネ50番、イタリア歌曲集
個人レッスンを取り入れながら集団授業	参考書
	サルバトーレ・マルケージ

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	基本原理・発声器官　美しい声を聞く	第1回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・ドイツ歌曲
第2回	基本原理・発声器官・呼吸器官	第2回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・ドイツ歌曲
第3回	基本原理・喉頭保持機能確認・母音唱法	第3回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・ドイツ歌曲
第4回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番	第4回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・ドイツ歌曲
第5回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番	第5回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・ドイツ歌曲
第6回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番	第6回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・ドイツ歌曲
第7回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番	第7回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル
第8回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番・イタリア歌曲	第8回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル
第9回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番・イタリア歌曲	第9回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル
第10回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番・イタリア歌曲	第10回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル
第11回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番・イタリア歌曲	第11回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル
第12回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番・イタリア歌曲	第12回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル
第13回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番・イタリア歌曲	第13回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル・演奏法
第14回	基本原理・共鳴器官確認・母音唱法 コンコーネ50番・イタリア歌曲	第14回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル・演奏法
第15回	まとめ	第15回	基本原理・発声共鳴器官確認 イタリア歌曲・オペラ・ミュージカル・演奏法

授業科目区分	基礎科目	担当科目	ピアノⅢ・Ⅳ（旧:ピアノⅡ）	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 発達障害児への個人音楽療法　9年 障害者支援施設での集団音楽療法　3年 ピアノ・音楽基礎指導歴　20年　　医療機関受付・事務歴　20年						
実務経験と授業	ピアノ、音楽基礎指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な音楽の基礎知識を養う。						
学期区分	前期	金曜日　1時限・2時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
ピアノ奏法の基本的なテクニック、表現する力を養い、音楽療法として提供するための多様な表現方法を習得する。	日頃の練習・授業態度・実技試験
	教科書
授業の進め方	ハノンピアノ教本、それぞれの進度の楽譜
個人レッスンおよびグループレッスン	参考書
	特になし

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	前期試験曲選定	第1回	後期試験曲選定
第2回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第2回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第3回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第3回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第4回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第4回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第5回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第5回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第6回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第6回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第7回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第7回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第8回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第8回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第9回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第9回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第10回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第10回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第11回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第11回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第12回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第12回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第13回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第13回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第14回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第14回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ
第15回	前期試験曲のレッスン（ロマン派） 全調のアルペジオおよびカデンツ	第15回	後期試験曲のレッスン（近・現代） 全調のアルペジオおよびカデンツ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	ギターⅡ（旧:ギター）	単位数	1	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	北沢泰之			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	校外施設		
	後期	火曜日　2時限		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
ギター奏法を基礎から学び、弾き語りができ、音楽療法士試験合格を目標とする。	授業への取り組み度
	教科書
授業の進め方	
弾き語り	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	弾き語り
第3回		第3回	弾き語り
第4回		第4回	弾き語り
第5回		第5回	弾き語り
第6回		第6回	弾き語り
第7回		第7回	弾き語り
第8回		第8回	課題曲への取り組み
第9回		第9回	課題曲への取り組み
第10回		第10回	課題曲への取り組み
第11回		第11回	課題曲への取り組み
第12回		第12回	課題曲への取り組み
第13回		第13回	課題曲への取り組み
第14回		第14回	課題曲への取り組み
第15回		第15回	発表

授業科目区分	基礎科目	担当科目	器楽Ⅰ	単位数	1	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	石井聡恵			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	204教室		
	後期	木曜日 3･4時限(隔週)		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
様々な現場に対応できる多様な楽器を用いた小規模アンサンブルを学ぶ。	授業への取り組み度
	教科書
授業の進め方	
各イベント向け楽曲のアレンジ等工夫し音楽づくりを進める。	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	器楽演習
第2回		第2回	器楽演習
第3回		第3回	器楽演習
第4回		第4回	器楽演習
第5回		第5回	器楽演習
第6回		第6回	器楽演習
第7回		第7回	器楽演習
第8回		第8回	定期演奏会に向けた曲作り
第9回		第9回	定期演奏会に向けた曲作り
第10回		第10回	定期演奏会に向けた曲作り
第11回		第11回	定期演奏会に向けた曲作り
第12回		第12回	定期演奏会に向けた曲作り
第13回		第13回	定期演奏会に向けた曲作り
第14回		第14回	定期演奏会に向けた曲作り
第15回		第15回	定期演奏会に向けた曲作り

授業科目区分	基礎科目	担当科目	器楽Ⅱ	単位数	1	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	石井聡恵			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	204教室		
	後期	木曜日 3･4時限(隔週)		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
各自得意とする楽器を選択し、音楽療法臨床場面で求められる楽器の演奏スキルを高める。 メロディ譜からアンサンブルを行い、他者と音楽を作る技術を獲得する。	出席および発表による評価
	教科書
授業の進め方	
各自臨床場面を想定して、課題曲を選曲。発表に向けて練習を行う。	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	器楽演習(管打楽器)
第2回		第2回	器楽演習(管打楽器)
第3回		第3回	器楽演習(管打楽器)
第4回		第4回	器楽演奏　セッション現場での事例
第5回		第5回	器楽演習(管打楽器)
第6回		第6回	器楽演習(管打楽器)
第7回		第7回	器楽演習(管打楽器)
第8回		第8回	器楽演奏　セッション現場での事例
第9回		第9回	器楽演習(管打楽器)
第10回		第10回	器楽演習(管打楽器)
第11回		第11回	器楽演習(管打楽器)
第12回		第12回	器楽演奏　セッション現場での事例
第13回		第13回	リズム演習Ⅰ
第14回		第14回	リズム演習Ⅱ
第15回		第15回	まとめ　発表

授業科目区分	基礎科目	担当科目	合唱①	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	高木房雄			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	高校教諭一級の資格を有し、以下の実務経験がある。 公立高校音楽科教諭、音楽科専門高校教諭、公立校校長 41年 高校合唱、吹奏楽指導、各種コンクール出場 一般合唱団4団体、声楽アンサンブル、弦楽オーケストラ等を育成指導 51年						
実務経験と授業	合唱指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	水曜日 4時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
基本的な発声技術を持ち、合唱アンサンブルに必要なバランス能力、他声部との協調性を育み、豊かな対象者とのコミュニケーション力を獲得する。	実技評価
	教科書
授業の進め方	コンコーネ50番、合唱曲集
パート練習を取り入れながらの集団授業	参考書
	合唱のためのエチュード

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第1回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第2回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第2回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第3回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第3回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第4回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第4回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第5回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第5回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第6回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第6回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第7回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習	第7回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習
第8回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習	第8回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習
第9回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第9回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第10回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第10回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第11回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第11回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第12回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第12回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第13回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第13回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第14回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備	第14回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備
第15回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備	第15回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備

授業科目区分	基礎科目	担当科目	合唱②	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	高木房雄			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	高校教諭一級の資格を有し、以下の実務経験がある。 公立高校音楽科教諭、音楽科専門高校教諭、公立校校長 41年 高校合唱、吹奏楽指導、各種コンクール出場 一般合唱団4団体、声楽アンサンブル、弦楽オーケストラ等を育成指導 51年						
実務経験と授業	合唱指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	水曜日 4時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
基本的な発声技術を持ち、合唱アンサンブルに必要なバランス能力、他声部との協調性を育み、豊かな対象者とのコミュニケーション力を獲得する。	実技評価
	教科書
授業の進め方	コンコーネ50番、合唱曲集
パート練習を取り入れながらの集団授業	参考書
	合唱のためのエチュード

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第1回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第2回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第2回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第3回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第3回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第4回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第4回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第5回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第5回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第6回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第6回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第7回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習	第7回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習
第8回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習	第8回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習
第9回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第9回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第10回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第10回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第11回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第11回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第12回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第12回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第13回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第13回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第14回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備	第14回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備
第15回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備	第15回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備

授業科目区分	基礎科目	担当科目	合唱③	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	高木房雄			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	高校教諭一級の資格を有し、以下の実務経験がある。 公立高校音楽科教諭、音楽科専門高校教諭、公立校校長 41年 高校合唱、吹奏楽指導、各種コンクール出場 一般合唱団4団体、声楽アンサンブル、弦楽オーケストラ等を育成指導 51年						
実務経験と授業	合唱指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	水曜日 4時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
基本的な発声技術を持ち、合唱アンサンブルに必要なバランス能力、他声部との協調性を育み、豊かな対象者とのコミュニケーション力を獲得する。	実技評価
	教科書
授業の進め方	コンコーネ50番、合唱曲集
パート練習を取り入れながらの集団授業	参考書
	合唱のためのエチュード

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第1回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第2回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第2回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第3回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞	第3回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲参考映像鑑賞
第4回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第4回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第5回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第5回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第6回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習	第6回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習
第7回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習	第7回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習
第8回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習	第8回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体練習
第9回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第9回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第10回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第10回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第11回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第11回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第12回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第12回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第13回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実	第13回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・少人数パートアンサンブルの充実
第14回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備	第14回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備
第15回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備	第15回	発声器官確認・声出し・エチュード実習・演奏曲のパート練習・全体合唱発表準備

授業科目区分	基礎科目	担当科目	合奏①	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	石井聡恵			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	火曜日 3時限		講義室等	204教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
吹奏楽を中心として、各人の楽器演奏技術の向上を、それを基とした	実技評価
	教科書
授業の進め方	
パート練習を取り入れながらの集団授業	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	楽器決め、パート決め	第1回	合奏中級・後期曲決め
第2回	個人・パート練習	第2回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第3回	個人・パート練習	第3回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第4回	個人・パート練習、合奏参加	第4回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第5回	個人・パート練習、合奏参加	第5回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第6回	基礎合奏・合奏課題	第6回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第7回	基礎合奏・合奏課題	第7回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第8回	基礎合奏・合奏課題	第8回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第9回	基礎合奏・合奏課題	第9回	定期演奏会に向けた取り組み
第10回	基礎合奏・合奏課題	第10回	定期演奏会に向けた取り組み
第11回	基礎合奏・合奏課題	第11回	定期演奏会に向けた取り組み
第12回	基礎合奏・合奏課題、全学年で合奏	第12回	定期演奏会に向けた取り組み
第13回	基礎合奏・合奏課題、全学年で合奏	第13回	定期演奏会に向けた取り組み
第14回	基礎合奏・合奏課題、全学年で合奏	第14回	定期演奏会リハーサル等
第15回	基礎合奏・合奏課題、全学年で合奏	第15回	定期演奏会リハーサル等

授業科目区分	基礎科目	担当科目	合奏②	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	石井聡恵			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	火曜日 3時限		講義室等	204教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
吹奏楽を中心として、各人の楽器演奏技術の向上を、それを基とした合奏を行う。定期演奏会等、年数回の発表の場でその成果を披露する。	授業への取り組み
	教科書
授業の進め方	
基礎練習と合奏	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	楽器決め、パート決め、曲決め	第1回	合奏中級、曲決め
第2回	合奏基礎、パート・個人練習	第2回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第3回	課題曲合奏①	第3回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第4回	課題曲合奏①	第4回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第5回	課題曲合奏①	第5回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第6回	課題曲合奏①	第6回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第7回	まとめ	第7回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第8回	課題曲合奏②	第8回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第9回	課題曲合奏②	第9回	定期演奏会に向けた取り組み
第10回	課題曲合奏②	第10回	定期演奏会に向けた取り組み
第11回	課題曲合奏②	第11回	定期演奏会に向けた取り組み
第12回	課題曲合奏②	第12回	定期演奏会に向けた取り組み
第13回	課題曲合奏②	第13回	定期演奏会に向けた取り組み
第14回	まとめ	第14回	定期演奏会リハーサル等
第15回	まとめ	第15回	定期演奏会リハーサル等

授業科目区分	基礎科目	担当科目	合奏③	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	石井聡恵			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	3年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	火曜日 3時限		講義室等	204教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
吹奏楽を中心として、各人の楽器演奏技術の向上を、それを基とした合奏を行う。定期演奏会等、年数回の発表の場でその成果を披露する。	授業への取り組み
	教科書
授業の進め方	
基礎練習と合奏	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	楽器決め、パート決め、曲決め	第1回	合奏中級、曲決め
第2回	合奏基礎、パート・個人練習	第2回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第3回	課題曲合奏①	第3回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第4回	課題曲合奏①	第4回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第5回	課題曲合奏①	第5回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第6回	課題曲合奏①	第6回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第7回	まとめ	第7回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第8回	課題曲合奏②	第8回	クリスマスコンサートに向けた取り組み
第9回	課題曲合奏②	第9回	定期演奏会に向けた取り組み
第10回	課題曲合奏②	第10回	定期演奏会に向けた取り組み
第11回	課題曲合奏②	第11回	定期演奏会に向けた取り組み
第12回	課題曲合奏②	第12回	定期演奏会に向けた取り組み
第13回	課題曲合奏②	第13回	定期演奏会に向けた取り組み
第14回	まとめ	第14回	定期演奏会リハーサル等
第15回	まとめ	第15回	定期演奏会リハーサル等

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法概論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 放課後等デイサービスでの音楽療法 2年 生活介護施設での音楽療法 1年 知的発達障害児への個人音楽療法 2年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な音楽療法の基礎的な知識や倫理、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	木曜日 4時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽療法の基礎的な知識、理論を学ぶとともに、実践活用できる技術を習得する。また、人と共感することのできる音楽療法士としての感性を養う。	筆記試験、授業態度、提出課題
	教科書
授業の進め方	音楽療法の基礎
テキストを通して知識・理論の理解を深める。 ワークや発表の場を通して実践の技術を学ぶ。	参考書
	標準音楽療法入門（上）（下）

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	オリエンテーション パーソナル・ソング鑑賞	第1回	
第2回	音楽療法とは① 音楽療法の定義	第2回	
第3回	音楽療法とは② 音楽療法士の業務・倫理	第3回	
第4回	音楽療法とは③ 多職種連携における音楽療法士の役割	第4回	
第5回	音楽療法の歴史①	第5回	
第6回	音楽療法の歴史②	第6回	
第7回	音楽療法の歴史③	第7回	
第8回	音楽の生理的作用	第8回	
第9回	音楽の心理的作用	第9回	
第10回	音楽の社会的作用	第10回	
第11回	アセスメント	第11回	
第12回	目標設定と介入計画	第12回	
第13回	模擬セッション①	第13回	
第14回	模擬セッション②	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法の諸理論（旧:理論と技法Ⅰ）	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 放課後等デイサービスでの音楽療法　2年 生活介護施設での音楽療法　1年 知的発達障害児への個人音楽療法　2年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、理論と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	月曜日　2時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
児童、成人、高齢者の領域における音楽療法の理論を学び、テキストやワークを通して臨床現場で行われている方法を体験する。実際の臨床現場において、音楽を対象者に合わせて選択し、使いこなす技術を身につける。	筆記試験、授業態度
	教科書
授業の進め方	音楽療法を知る―その理論と技法―
臨床現場で使われる音楽の技法を紹介し、体験的に学びながら理解を深める。	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	音楽療法とは
第2回		第2回	音楽の三要素
第3回		第3回	集団音楽療法について 3つのアプローチ
第4回		第4回	歌唱活動の意義
第5回		第5回	ワーク
第6回		第6回	楽器活動の意義
第7回		第7回	ワーク①
第8回		第8回	ワーク②
第9回		第9回	創作活動の意義
第10回		第10回	ワーク
第11回		第11回	感覚と運動
第12回		第12回	ワーク
第13回		第13回	鑑賞活動の意義
第14回		第14回	ワーク
第15回		第15回	発表、まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法の研究（旧：理論と技法Ⅱ）	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	3年		

実務家教員としての経歴
音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。
大学病院（精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来）での音楽療法　5年
精神科単科病院での音楽療法　5年
児童発達支援センターでの音楽療法　11年、音楽療法センターでの個人音楽療法　2年
高齢者施設、デイサービス、自主グループ（発達障害、失語症、統合失調症）、その他の音楽療法等

実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な研究の視点を養う

学期区分	前期	水曜日　3時限	講義室等	304教室
	後期		授業形式	講義

授業目標および概要	成績評価の方法
学問と音楽療法の関連、量的研究や質的研究、哲学的研究や歴史研究の基礎を学ぶ	試験およびレポート
	教科書
授業の進め方	
講義、論文輪読	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	研究とは何か	第2回	
第3回	文献検索の方法	第3回	
第4回	統計学の基礎	第4回	
第5回	量的研究	第5回	
第6回	質的研究	第6回	
第7回	様々な音楽療法と研究	第7回	
第8回	ノードフ・ロビンズ音楽療法	第8回	
第9回	分析的音楽療法	第9回	
第10回	GIM	第10回	
第11回	行動論的音楽療法	第11回	
第12回	神経学的音楽療法	第12回	
第13回	ケーススタディのまとめ方	第13回	
第14回	ケーススタディのまとめ方	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法各論Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 放課後等デイサービスでの音楽療法 2年 生活介護施設での音楽療法 1年 知的発達障害児への個人音楽療法 2年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な、対象者に合わせた曲目、楽器、活動を計画・実践できる力を養う。						
学期区分	前期	火曜日 2時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
障がい児の運動、ADL、認知、言語、社会性について障がいの特徴や発達への理解を深め、音楽療法における障がい児の遊びやコミュニケーション、発達的視点を踏まえた支援について学ぶ。	試験およびレポート
	教科書
授業の進め方	子どもの世界をよみとく音楽療法 ―特別支援教育の発達的視点を踏まえて―
教材を読む、ビデオを観る、実践することを通して、自分なりに考え、グループ討論を通して障害児について理解を深める。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	障がい児の理解	第2回	
第3回	障がい児の理解	第3回	
第4回	始まりの歌	第4回	
第5回	始まりの歌	第5回	
第6回	終わりの歌	第6回	
第7回	終わりの歌	第7回	
第8回	模倣遊び	第8回	
第9回	模倣遊び	第9回	
第10回	集団遊び	第10回	
第11回	目的に応じた歌遊び	第11回	
第12回	目的に応じた歌遊び	第12回	
第13回	対象者に合わせる活動	第13回	
第14回	まとめ	第14回	
第15回	発表	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法各論Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		

実務家教員としての経歴
音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。
大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法 5年
精神科単科病院での音楽療法 5年
児童発達支援センターでの音楽療法 11年、音楽療法センターでの個人音楽療法 2年
高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等

実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な精神科における基礎知識および音楽療法を実践できる力を養う。

学期区分	前期	木曜日 1時限	講義室等	301教室
	後期		授業形式	講義

授業目標および概要	成績評価の方法
メンタルヘルスと音楽療法について学ぶ	試験およびレポート
	教科書
授業の進め方	精神疾患メンタルヘルスガイドブック
テキストを用いて理論と実践の理解を深める。精神科領域のセッションのワークショップを通して体験的に技法を獲得する。	参考書
	精神科領域における音楽療法ハンドブック

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	うつ病	第2回	
第3回	うつ病の音楽療法	第3回	
第4回	症例検討	第4回	
第5回	統合失調症	第5回	
第6回	統合失調症の音楽療法	第6回	
第7回	症例検討	第7回	
第8回	不安障害	第8回	
第9回	不安障害の音楽療法	第9回	
第10回	症例検討	第10回	
第11回	摂食障害	第11回	
第12回	摂食障害の音楽療法	第12回	
第13回	症例検討	第13回	
第14回	依存症	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法各論Ⅲ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法 2年 特別養護老人ホームでの音楽療法 6年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な高齢者領域における基礎知識および音楽療法を実践できる力を養う。						
学期区分	前期	木曜日 3時限		講義室等	304教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
高齢者の心身の状態や生活を理解した上で、歌唱、楽器活動それぞれの目的・方法を学ぶ。 緩和ケア患者、家族の心理の状態を理解し、心理ケアとしての音楽療法の方法、目的を学ぶ。	出席および試験
	教科書
授業の進め方	最新研究による高齢者音楽療法
講義とワーク	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	高齢者について①	第1回	
第2回	高齢者について②	第2回	
第3回	認知症と音楽療法①	第3回	
第4回	認知症と音楽療法②	第4回	
第5回	認知症と音楽療法③	第5回	
第6回	ホスピス・緩和ケア①	第6回	
第7回	ホスピス・緩和ケア②	第7回	
第8回	ホスピス・緩和ケア③	第8回	
第9回	スピリチュアルケア①	第9回	
第10回	スピリチュアルケア②	第10回	
第11回	グリーフケア①	第11回	
第12回	グリーフケア②	第12回	
第13回	死生観について①	第13回	
第14回	死生観について②	第14回	
第15回	死生観について③ まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	技能Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	45		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法 2年 特別養護老人ホームでの音楽療法 6年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な高齢者領域における基礎知識および音楽療法を実践できる力を養う。						
学期区分	前期	火曜日 4時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	実技		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
楽器演奏(特に音楽療法で使用される打楽器等)の技術を高める	授業態度、課題発表
	教科書
授業概要	
講義または演習	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	様々な楽器(音楽療法で使用する打楽器)①	第2回	
第3回	様々な楽器(音楽療法で使用する打楽器)②	第3回	
第4回	様々な楽器(音楽療法で使用する打楽器)③	第4回	
第5回	楽器を用いたグループ活動①	第5回	
第6回	楽器を用いたグループ活動②	第6回	
第7回	楽器を用いたグループ活動③	第7回	
第8回	グループ発表	第8回	
第9回	既成曲の活用①	第9回	
第10回	既成曲の活用②	第10回	
第11回	グループ発表	第11回	
第12回	オリジナル曲の作成①	第12回	
第13回	オリジナル曲の作成②	第13回	
第14回	個人発表	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	技能Ⅱ（旧:技能Ⅰ）	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	45		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院（回復期病棟）での音楽療法　2年 特別養護老人ホームでの音楽療法　6年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な高齢者領域における基礎知識および音楽療法を実践できる力を養う。						
学期区分	前期			講義室等	201教室		
	後期	火曜日　4時限		授業形式	実技		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
音楽療法の臨床に必要な身体運動に関する技能を高める	授業態度、課題発表
	教科書
授業概要	
講義または演習	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	ダンス①
第3回		第3回	ダンス②
第4回		第4回	ダンス③
第5回		第5回	グループ発表
第6回		第6回	動作模倣①
第7回		第7回	動作模倣②
第8回		第8回	動作模倣③
第9回		第9回	グループ発表
第10回		第10回	介護予防のための身体運動①
第11回		第11回	介護予防のための身体運動②
第12回		第12回	リハビリテーションのための身体運動①
第13回		第13回	リハビリテーションのための身体運動②
第14回		第14回	グループ発表
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	技能Ⅲ（旧:技能Ⅱ）	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	45		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院（精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来）での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　11年、音楽療法センターでの個人音楽療法　2年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ（発達障害、失語症、統合失調症）、その他の音楽療法等						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な即興の力を養う。						
学期区分	前期	木曜日　3時限		講義室等	301教室		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽療法士に必要な創作の技術を学ぶ	出席、授業態度、課題への取り組み姿勢
	教科書
授業の進め方	
さまざまな創作に実際に取り組みながら、スキルを身につける	参考書 音楽療法のための即興演奏ハンドブック

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	言葉を用いた創作	第2回	
第3回	詩と創作	第3回	
第4回	Song Writing①	第4回	
第5回	Song Writing②	第5回	
第6回	絵本を用いた創作①	第6回	
第7回	絵本を用いた創作②	第7回	
第8回	グループ発表	第8回	
第9回	リズムを用いた創作	第9回	
第10回	アフリカのリズム	第10回	
第11回	ラテンのリズム	第11回	
第12回	言葉とリズム	第12回	
第13回	ポリリズム	第13回	
第14回	音のキャッチボール	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	技能Ⅳ（旧:技能Ⅱ）	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	45		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院（精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来）での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　11年、音楽療法センターでの個人音楽療法　2年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ（発達障害、失語症、統合失調症）、その他の音楽療法等						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な即興の力を養う。						
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	木曜日　1時限		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽療法士に必要な即興の技術を学ぶ	出席、授業態度、課題への取り組み姿勢
	教科書
授業の進め方	
さまざまな即興に実際に取り組みながら、スキルを身につける	参考書 音楽療法のための即興演奏ハンドブック

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	メロディを用いた即興
第3回		第3回	ドリア旋法
第4回		第4回	フリギア旋法
第5回		第5回	リディア旋法
第6回		第6回	ミクソリディア旋法
第7回		第7回	エオリア旋法
第8回		第8回	田舎節音階
第9回		第9回	都節音階
第10回		第10回	琉球音階
第11回		第11回	アラビア音階
第12回		第12回	アンサンブル即興
第13回		第13回	トーンチャイムを用いて
第14回		第14回	さまざまな楽器を用いて
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	技能Ⅴ（旧:技能Ⅲ）	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	45		
担当教員	髙橋和奈枝・藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期			講義室等	304教室		
	後期	金曜日 3時限		授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽療法に必要な歌唱と聴取の技能を学ぶ	課題、授業態度
	教科書
授業の進め方	
講義・演習	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	セッションにおける歌唱①
第3回		第3回	セッションにおける歌唱②
第4回		第4回	セッションにおける歌唱③
第5回		第5回	オートハープの技術①
第6回		第6回	オートハープの技術②
第7回		第7回	ギター伴奏による歌唱①
第8回		第8回	ギター伴奏による歌唱②
第9回		第9回	音楽とリラクセーション
第10回		第10回	RMT体験
第11回		第11回	GIM体験①
第12回		第12回	GIM体験②
第13回		第13回	GIM体験③
第14回		第14回	マンダラとイメージ
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	実習Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	90		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	1年・2年・3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院（精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来）での音楽療法　5年 精神科単科病院での音楽療法　5年 児童発達支援センターでの音楽療法　11年、音楽療法センターでの個人音楽療法　2年 高齢者施設、デイサービス、自主グループ（発達障害、失語症、統合失調症）、その他の音楽療法等						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な障害児への音楽療法の実践的基礎力を養う。						
学期区分	前期	水曜日　1・2時限		講義室等	校外施設		
	後期	木曜日　3・4時限（隔週）		授業形式	実習		

授業目標および概要	成績評価の方法
発達障害の児童に対する音楽療法の実習	出席、実習記録
	教科書
授業の進め方	
臨床実習	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	各クラスにおける音楽療法担当	第2回	各クラスにおける音楽療法担当
第3回	各クラスにおける音楽療法担当	第3回	各クラスにおける音楽療法担当
第4回	各クラスにおける音楽療法担当	第4回	各クラスにおける音楽療法担当
第5回	各クラスにおける音楽療法担当	第5回	各クラスにおける音楽療法担当
第6回	各クラスにおける音楽療法担当	第6回	各クラスにおける音楽療法担当
第7回	各クラスにおける音楽療法担当	第7回	各クラスにおける音楽療法担当
第8回	各クラスにおける音楽療法担当	第8回	各クラスにおける音楽療法担当
第9回	各クラスにおける音楽療法担当	第9回	各クラスにおける音楽療法担当
第10回	各クラスにおける音楽療法担当	第10回	各クラスにおける音楽療法担当
第11回	各クラスにおける音楽療法担当	第11回	各クラスにおける音楽療法担当
第12回	各クラスにおける音楽療法担当	第12回	コンサート
第13回	各クラスにおける音楽療法担当	第13回	コンサート
第14回	各クラスにおける音楽療法担当	第14回	各クラスにおける音楽療法担当
第15回	各クラスにおける音楽療法担当	第15回	各クラスにおける音楽療法担当

授業科目区分	基礎科目	担当科目	実習Ⅱ（旧:実習Ⅲ）	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	90		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2･3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 発達障害児への個人音楽療法　9年 障害者支援施設での集団音楽療法　3年 ピアノ･音楽基礎指導歴　20年　　医療機関受付･事務歴　20年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な成人領域における音楽療法の実践的基礎力を養う。						
学期区分	前期	水曜日　1･2時限		講義室等	校外施設		
	後期			授業形式	実習		

授業目標および概要	成績評価の方法
･成人領域の施設で、対象者との関わり、施設職員との連携を学ぶ。 ･アセスメント、目標、プログラム作成、評価を学び、集団音楽療法を実践する。 ･グループで計画、実践する中で協調性を学ぶ。	出席、実習記録、実習への参加姿勢
	教科書
授業の進め方	
個別指導、グループでの共有･実践	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	実習･プログラム作成･反省	第2回	実習･プログラム作成･反省
第3回	実習･プログラム作成･反省	第3回	実習･プログラム作成･反省
第4回	実習･プログラム作成･反省	第4回	実習･プログラム作成･反省
第5回	実習･プログラム作成･反省	第5回	実習･プログラム作成･反省
第6回	実習･プログラム作成･反省	第6回	実習･プログラム作成･反省
第7回	実習･プログラム作成･反省	第7回	実習･プログラム作成･反省
第8回	実習･プログラム作成･反省	第8回	実習･プログラム作成･反省
第9回	実習･プログラム作成･反省	第9回	実習･プログラム作成･反省
第10回	実習･プログラム作成･反省	第10回	実習･プログラム作成･反省
第11回	実習･プログラム作成･反省	第11回	実習･プログラム作成･反省
第12回	実習･プログラム作成･反省	第12回	実習･プログラム作成･反省
第13回	実習･プログラム作成･反省	第13回	実習･プログラム作成･反省
第14回	実習･プログラム作成･反省	第14回	実習･プログラム作成･反省
第15回	実習･プログラム作成･反省	第15回	実習･プログラム作成･反省

授業科目区分	基礎科目	担当科目	実習Ⅲ（旧:実習Ⅳ）	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	90		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院（回復期病棟）での音楽療法　2年 特別養護老人ホームでの音楽療法　6年						
実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な高齢者施設での集団で行う音楽療法及びプログラム作成、実践力を養う。						
学期区分	前期	金曜日　1･2時限		講義室等	校外施設		
	後期			授業形式	実習		

授業目標および概要	成績評価の方法
グループホームにおいて、対象者に合わせた目標の立て方、プログラム作成、実践を学ぶ。	出席、実習記録、実習への参加姿勢
	教科書
授業の進め方	
チームで計画、実践、反省、評価を進め、それぞれの知識と技術を高めあえるような授業をする。	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	実習・プログラム作成・反省
第2回	実習・プログラム作成・反省	第2回	実習・プログラム作成・反省
第3回	実習・プログラム作成・反省	第3回	実習・プログラム作成・反省
第4回	実習・プログラム作成・反省	第4回	実習・プログラム作成・反省
第5回	実習・プログラム作成・反省	第5回	実習・プログラム作成・反省
第6回	実習・プログラム作成・反省	第6回	実習・プログラム作成・反省
第7回	実習・プログラム作成・反省	第7回	実習・プログラム作成・反省
第8回	実習・プログラム作成・反省	第8回	実習・プログラム作成・反省
第9回	実習・プログラム作成・反省	第9回	実習・プログラム作成・反省
第10回	実習・プログラム作成・反省	第10回	実習・プログラム作成・反省
第11回	実習・プログラム作成・反省	第11回	実習・プログラム作成・反省
第12回	実習・プログラム作成・反省	第12回	実習・プログラム作成・反省
第13回	実習・プログラム作成・反省	第13回	実習・プログラム作成・反省
第14回	実習・プログラム作成・反省	第14回	実習・プログラム作成・反省
第15回	実習・プログラム作成・反省	第15回	実習・プログラム作成・反省

授業科目区分	基礎科目	担当科目	コミュニケーション技能Ⅰ・Ⅱ（旧:演習）	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	髙橋和奈枝・近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年・3年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	火曜日　4時限		講義室等	301教室・304教室		
	後期			授業形式	実習		

授業目標および概要	成績評価の方法
実習のための演奏の準備、楽器の用意、グループワーク	出席および授業態度
	教科書
授業の進め方	
各回の実習の反省や計画を通じて理解度を深める。	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	オリエンテーション
第2回	言語コミュニケーション①	第2回	自己発見、自己分析①
第3回	言語コミュニケーション②	第3回	自己発見、自己分析②
第4回	言語コミュニケーション③	第4回	自己発見、自己分析③
第5回	非言語コミュニケーション①	第5回	グループ技法①
第6回	非言語コミュニケーション②	第6回	グループ技法②
第7回	非言語コミュニケーション③	第7回	グループ技法③
第8回	セルフケアの技法①	第8回	一般の人への説明①
第9回	セルフケアの技法②	第9回	一般の人への説明②
第10回	セルフケアの技法③	第10回	一般の人への説明③
第11回	グループ演習①	第11回	グループ演習①
第12回	グループ演習②	第12回	グループ演習②
第13回	グループ演習③	第13回	グループ演習③
第14回	グループ発表会	第14回	グループ発表会
第15回	まとめ	第15回	まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	卒業論文	単位数	4	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	高橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	3年		

実務家教員としての経歴
音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。
大学病院(精神神経科、神経内科、消化器内科・外科、失語症外来)での音楽療法 5年
精神科単科病院での音楽療法 5年
児童発達支援センターでの音楽療法 11年、音楽療法センターでの個人音楽療法 2年
高齢者施設、デイサービス、自主グループ(発達障害、失語症、統合失調症)、その他の音楽療法等

実務経験と授業	音楽療法士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な論文作成の技術を養う

学期区分	前期	木曜日 2時限	講義室等	304教室
	後期	月曜日 2時限	授業形式	講義

授業目標および概要	成績評価の方法
3年間の音楽療法専門教育の過程や臨床活動から学生が学んだ価値観、臨床における哲学や思想、そして理論・技術を統合的にまとめた論文を作成する。臨床研究と調査研究などを行う。2月には卒業論文発表を行い、卒業論文集も作成する。	卒業研究への取り組み 卒業論文発表会におけるプレゼンテーション 卒業論文
	教科書
授業の進め方	
前期:クラス授業 後期:個別指導	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	卒業論文について	第1回	中間発表準備
第2回	テーマ設定	第2回	中間発表準備
第3回	アウトライン設定	第3回	中間発表準備
第4回	アウトライン設定	第4回	中間発表準備
第5回	アウトライン設定	第5回	中間発表
第6回	先行研究収集	第6回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第7回	先行研究収集	第7回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第8回	先行研究収集	第8回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第9回	先行研究収集	第9回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第10回	先行研究収集	第10回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第11回	先行研究収集	第11回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第12回	プレゼンテーション作成	第12回	プレゼンテーション作成、論文執筆、推敲
第13回	プレゼンテーション作成	第13回	卒業論文発表準備
第14回	プレゼンテーション作成	第14回	卒業論文発表リハーサル
第15回	プレゼンテーション作成	第15回	卒業論文発表

授業科目区分	基礎科目	担当科目	医学概論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	田中文子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	看護師の資格を有し、以下の実務経験がある。 病院勤務 6年 看護師養成校 専任教員 3年 高齢者福祉施設勤務 18年						
実務経験と授業	看護師の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	金曜日 3時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
医療・福祉の現場で活躍していく中で、広く医療の今日を捉えるための糸口を示す。医学・医療の歴史から、生物的生命論、哲学生命論、現代医療に関わる諸問題と多岐にわたる。提供される話題を材料に、音楽療法士としての基本となるものを自ら築き上げるきっかけとする。	レポート提出・テスト
	教科書
授業の進め方	ぜんぶわかる人体解剖図
講義	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	医学概論の目指すもの	第1回	
第2回	医学・医療の歴史①	第2回	
第3回	医学・医療の歴史②	第3回	
第4回	看護の歴史①	第4回	
第5回	看護の歴史②	第5回	
第6回	生命哲学①	第6回	
第7回	生命哲学②	第7回	
第8回	リハビリテーションの歴史①	第8回	
第9回	リハビリテーションの歴史②	第9回	
第10回	医学検査の歴史	第10回	
第11回	医学と医療の間	第11回	
第12回	生物はどのように死ぬか①	第12回	
第13回	生物はどのように死ぬか②	第13回	
第14回	現代医療にかかわる諸問題①	第14回	
第15回	現代医療にかかわる諸問題②	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	臨床医学各論Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	田中文子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	看護師の資格を有し、以下の実務経験がある。 病院勤務　6年 看護師養成校　専任教員　3年 高齢者福祉施設勤務　18年						
実務経験と授業	看護師の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	金曜日　3時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
乳幼児から高齢者まで幅広い心身の障害を持った方に働きかけるためには、医師や看護師、その他スタッフとの連携が欠かせない。音楽の領域だけでなく医学、心理学、福祉の幅広い知識を習得する。	レポート提出・テスト
	教科書
授業の進め方	やさしい医学・生理学
個人の課題として内容発表　その後補足講義、演習	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	老年者の生理的特徴
第2回		第2回	老年者の主要な症状とおこりやすい問題
第3回		第3回	老年者疾患の特徴
第4回		第4回	認知症　脳神経系疾患
第5回		第5回	循環器系の疾患
第6回		第6回	呼吸器系の疾患
第7回		第7回	消化器系の疾患
第8回		第8回	代謝・内分泌疾患
第9回		第9回	血管・膠原病
第10回		第10回	腎泌尿器系疾患
第11回		第11回	運動器・視・聴覚期
第12回		第12回	感染症
第13回		第13回	老年者の手術適応
第14回		第14回	老年医療の状況
第15回		第15回	老年者の終末医療

授業科目区分	基礎科目	担当科目	臨床医学各論Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	田中文子			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	3年		
実務家教員としての経歴	看護師の資格を有し、以下の実務経験がある。 病院勤務　6年 看護師養成校　専任教員　3年 高齢者福祉施設勤務　18年						
実務経験と授業	看護師の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期			講義室等	304教室		
	後期	金曜日　4時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
乳幼児から高齢者まで幅広い心身の障害を持った方に働きかけるためには、医師や看護師、その他スタッフとの連携が欠かせない。音楽の領域だけでなく医学、心理学、福祉の幅広い知識を習得する。	レポート提出・テスト
	教科書
授業の進め方	やさしい医学知識
解剖生理学をはじめ疾患等について、各個人ごとに（グループごと）課題を決め講義時間内で自己学習を行い課題発表の時間を取っていく	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	授業の進め方GW 医学の歴史・国民衛生の動向
第2回		第2回	解剖生理学（呼吸器・循環器・消化器等） グループ学習
第3回		第3回	解剖生理学（呼吸器・循環器・消化器等） グループ学習
第4回		第4回	解剖生理学（呼吸器・循環器・消化器等） グループ学習
第5回		第5回	グループごと　発表
第6回		第6回	グループごと　発表
第7回		第7回	解剖生理学（脳・脊髄神経・運動器） グループ学習
第8回		第8回	解剖生理学（脳・脊髄神経・運動器） グループ学習
第9回		第9回	解剖生理学（脳・脊髄神経・運動器） グループ学習
第10回		第10回	グループごと　発表
第11回		第11回	グループごと　発表
第12回		第12回	解剖生理学（皮膚・内分泌・腎・泌尿器） グループ学習
第13回		第13回	解剖生理学（皮膚・内分泌・腎・泌尿器） グループ学習
第14回		第14回	解剖生理学（皮膚・内分泌・腎・泌尿器） グループ学習
第15回		第15回	グループごと　発表

授業科目区分	基礎科目	担当科目	臨床心理学Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	芹澤文子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	臨床発達心理士の資格を有し、以下の実務経験がある。 障がい者総合支援センター/自治体の市町村での発達相談・育児相談・巡回相談支援等 24年 上田市立丸子中央小学校 心の教室 相談員 6年						
実務経験と授業	臨床発達心理士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	月曜日 4時限		講義室等	301教室		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
音楽療法士に必要な心理学の基礎的理論・療法への理解と知識を得る。	授業態度および筆記試験
	教科書
授業の進め方	臨床心理学と心理支援を基礎から学ぶ
講義・授業内小テスト	参考書
	みるよむ生涯臨床心理学

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	臨床心理学Ⅰについて	第1回	
第2回	精神分析的アプローチ(1)	第2回	
第3回	精神分析的アプローチ(2)	第3回	
第4回	行動主義的アプローチ(1)	第4回	
第5回	行動主義的アプローチ(2)	第5回	
第6回	人間性主義的アプローチ(1)	第6回	
第7回	人間性主義的アプローチ(2)	第7回	
第8回	認知主義的アプローチ(1)	第8回	
第9回	認知主義的アプローチ(2)	第9回	
第10回	その他のアプローチ(1)	第10回	
第11回	その他のアプローチ(2)	第11回	
第12回	アセスメントⅠ	第12回	
第13回	心理検査Ⅰ	第13回	
第14回	心理的支援Ⅰ	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	臨床心理学Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	芹澤文子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	臨床発達心理士の資格を有し、以下の実務経験がある。 障がい者総合支援センター/自治体の市町村での発達相談・育児相談・巡回相談支援等 24年 上田市立丸子中央小学校 心の教室 相談員 6年						
実務経験と授業	臨床発達心理士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	月曜日 3時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
対人支援における臨床心理学の療法を実践的に学ぶ力をつける。対人支援の考え方、スキルを臨床心理学の考え方をもとに知り、具体的にとりくむ力をつける。	授業態度、レポート及び筆記試験
	教科書
授業の進め方	臨床心理学と心理支援を基礎から学ぶ
講義と体験的学習を通して学びあう。	参考書
	みるよむ生涯臨床心理学

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	臨床心理学Ⅱについて
第2回		第2回	コラージュ説明
第3回		第3回	コラージュ
第4回		第4回	事例から学ぶ(1)
第5回		第5回	事例から学ぶ(2)
第6回		第6回	事例から学ぶ(3)
第7回		第7回	支援者・セラピストの態度
第8回		第8回	傾聴・体験(1)
第9回		第9回	傾聴・体験(2)
第10回		第10回	アセスメントの流れ
第11回		第11回	アセスメントⅡ
第12回		第12回	心理検査Ⅱ(1)
第13回		第13回	心理検査Ⅱ(2)
第14回		第14回	心理的支援Ⅱ(1)
第15回		第15回	心理的支援Ⅱ(2)

授業科目区分	基礎科目	担当科目	社会福祉概論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西條一彦			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	言語聴覚士の資格を有し、幼児から成人に至る様々な症例を担当する(15年)。 医事業務に携わり、診療報酬・介護報酬の請求業務の責任者(10年)。 病院管理者(事務長)として総務人事を統括する傍ら、自立支援給付との関わりを持つ(15年)。						
実務経験と授業	上記を活かし、音楽療法士および保育士を目指す学生に必要な基礎的な知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	水曜日 3時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
憲法25条の生存権の思想を基本的な視点とし、全ての人が人として尊重され、人間らしい豊かな生活を保障するための社会保障と社会福祉について概観し、音楽療法士試験および保育士国家試験レベルの知識を習得する。	出席、授業態度、試験を通じて総合的に評価
	教科書
授業の進め方	保育士合格テキスト2024上
講義と過去問の開設を併行して進める。	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	イントロダクション 現代社会における社会福祉の意義と歴史①
第2回		第2回	現代社会における社会福祉の意義と歴史②
第3回		第3回	こども家庭支援と社会福祉
第4回		第4回	社会福祉の制度と実施体系①
第5回		第5回	社会福祉の制度と実施体系②
第6回		第6回	社会福祉の制度と実施体系③
第7回		第7回	社会福祉の制度と実施体系④
第8回		第8回	社会福祉のサービス実施体制①
第9回		第9回	社会福祉のサービス実施体制②
第10回		第10回	社会福祉における相談援助
第11回		第11回	利用者保護にかかわる仕組み
第12回		第12回	社会福祉の動向と課題
第13回		第13回	社会福祉過去問①
第14回		第14回	社会福祉過去問②
第15回		第15回	社会福祉過去問③

授業科目区分	基礎科目	担当科目	発達心理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	芹澤文子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	臨床発達心理士の資格を有し、以下の実務経験がある。 障がい者総合支援センター/自治体の市町村での発達相談・育児相談・巡回相談支援等 24年 上田市立丸子中央小学校 心の教室 相談員 6年						
実務経験と授業	臨床発達心理士の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な基礎的な知識、倫理と技術、また音楽療法士としての感性を養う。						
学期区分	前期	月曜日 3時限		講義室等	301教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
人の発達を生涯発達の視点から理解し、主に発達の基礎となる乳幼児期の道筋とポイントをつかむ。人が生涯にわたり人生の中で発達しつづけていく力を支援する視点を得る。	授業態度、レポート、筆記試験
	教科書
授業の進め方	よくわかる発達心理学
講義（一方的な講義で終わらないように双方向のやりとりや、たんぽぽシートをつかう。）	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	「発達」を学ぶ現代的意義を考える	第1回	
第2回	胎児期	第2回	
第3回	胎児期から乳児期	第3回	
第4回	乳児期	第4回	
第5回	乳児期	第5回	
第6回	愛着形成	第6回	
第7回	認知の発達	第7回	
第8回	幼児期	第8回	
第9回	幼児期	第9回	
第10回	幼児期	第10回	
第11回	児童期	第11回	
第12回	青年期	第12回	
第13回	成人期	第13回	
第14回	老年期	第14回	
第15回	発達を支援する	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	特別支援教育	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 放課後等デイサービスでの音楽療法 2年 生活介護施設での音楽療法 1年 知的発達障害児への個人音楽療法 2年						
実務経験と授業	実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な、障がい児領域に関する基礎知識を養う。						
学期区分	前期	火曜日 1時限		講義室等	201教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
障がい児を取り巻く教育環境の変遷と、現在の特別支援教育について学ぶ。また障がい種についての理解を深め、臨床場面で出会う児童の障がい特性についての知識を獲得する。	試験およびレポート
	教科書
授業の進め方	障害児の音楽療法
講義のみならず動画などを見ながら理解を深める。	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	特別支援教育の理念と制度	第2回	
第3回	特別支援教育の理念と制度	第3回	
第4回	知的障がい	第4回	
第5回	知的障がい	第5回	
第6回	自閉症	第6回	
第7回	自閉症	第7回	
第8回	ダウン症	第8回	
第9回	ダウン症	第9回	
第10回	聴覚障がい児	第10回	
第11回	視覚障がい児	第11回	
第12回	肢体不自由児	第12回	
第13回	病弱児	第13回	
第14回	重度重複障がい児	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽教育	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 発達障害児への個人音楽療法 9年 障害者支援施設での集団音楽療法 3年 ピアノ・音楽基礎指導歴 20年　医療機関受付・事務歴 20年						
実務経験と授業	ピアノ、音楽基礎指導の実務経験を活かし、将来音楽療法士を目指す学生に必要な音楽の基礎知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	金曜日 4時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽教育の歴史や日本の音楽教育の知識を身につける。	授業態度・定期試験
	教科書
授業の進め方	
講義及び課題発表	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	授業概要	第1回	
第2回	音楽教育の歴史	第2回	
第3回	音楽教育の歴史	第3回	
第4回	音楽教育の歴史	第4回	
第5回	音楽教育の歴史	第5回	
第6回	学校における音楽教育	第6回	
第7回	学校における音楽教育	第7回	
第8回	学校における音楽教育	第8回	
第9回	学校における音楽教育	第9回	
第10回	学校教育以外の音楽教育、音楽教育のメソッド	第10回	
第11回	学校教育以外の音楽教育、音楽教育のメソッド	第11回	
第12回	学校教育以外の音楽教育、音楽教育のメソッド	第12回	
第13回	学校教育以外の音楽教育、音楽教育のメソッド	第13回	
第14回	まとめ・発表	第14回	
第15回	まとめ・発表	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	英語Ⅰ	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	竹田修			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	201教室		
	後期	月曜日 2時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
英語の発音・表現・聞き取り理解等、総合的に学ぶ。 海外研修に向けた意識で取り組む。	出席および試験
	教科書
授業の進め方	English Primer
教科書にとらわれず学生の状況に合わせて授業する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	be動詞
第2回		第2回	一般動詞 現在
第3回		第3回	一般動詞 過去
第4回		第4回	未来形
第5回		第5回	進行形
第6回		第6回	助動詞
第7回		第7回	名詞・冠詞
第8回		第8回	代名詞
第9回		第9回	前置詞
第10回		第10回	形容詞・副詞
第11回		第11回	比較
第12回		第12回	命令文・感嘆文
第13回		第13回	接続詞Ⅰ
第14回		第14回	接続詞Ⅱ
第15回		第15回	復習

授業科目区分	基礎科目	担当科目	英語Ⅱ	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	竹田修			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	月曜日 2時限		講義室等	301教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
英語の発音・表現・聞き取り理解等、総合的に学ぶ。 海外研修に向けた意識で取り組む。	出席、授業態度
	教科書
授業の進め方	English Primer
教科書にとらわれず学生の状況に合わせて授業する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	復習	第1回	
第2回	不定詞・動名詞Ⅰ	第2回	
第3回	不定詞・動名詞Ⅱ	第3回	
第4回	受動態Ⅰ	第4回	
第5回	受動態Ⅱ	第5回	
第6回	完了形	第6回	
第7回	基本文型	第7回	
第8回	疑問文Ⅰ	第8回	
第9回	疑問文Ⅱ	第9回	
第10回	ITの用法	第10回	
第11回	分詞	第11回	
第12回	関係代名詞	第12回	
第13回	会話でⅠ	第13回	
第14回	会話でⅡ	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	英語Ⅲ	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学　年	3年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	月曜日　3時限		講義室等	304教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
英語の4技能であるReading、Listening、Speaking、Writingを総合的に学ぶ。洋書を一冊読む。	出席、授業態度
	教科書
授業の進め方	The Phantom of the Opera
洋書を読む。 毎回小テスト、リスニングを行う。	参考書

履修上の注意事項	単語ノート（A5サイズ）を1冊準備する。

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	Chapter 1	第2回	
第3回	Chapter 2	第3回	
第4回	Chapter 3	第4回	
第5回	Chapter 4	第5回	
第6回	Chapter 5	第6回	
第7回	Chapter 6	第7回	
第8回	Chapter 7	第8回	
第9回	Chapter 8	第9回	
第10回	Chapter 9	第10回	
第11回	Chapter 10	第11回	
第12回	Chapter 11	第12回	
第13回	Chapter 12	第13回	
第14回	Chapter 13	第14回	
第15回	Chapter 14	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	キャリアデザイン	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法 2年 特別養護老人ホームでの音楽療法 6年						
実務経験と授業							
学期区分	前期	火曜日 1時限		講義室等	304教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
一人ひとりが目指すものや就職先について、自分自身が考えデザインをする。 就職活動のサポートを行う。	出席および授業態度
	教科書
授業の進め方	
講義、個別対応	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	スケジュール組み立て	第2回	
第3回	個別指導	第3回	
第4回	個別指導	第4回	
第5回	個別指導	第5回	
第6回	個別指導	第6回	
第7回	個別指導	第7回	
第8回	個別指導	第8回	
第9回	個別指導	第9回	
第10回	個別指導	第10回	
第11回	個別指導	第11回	
第12回	個別指導	第12回	
第13回	個別指導	第13回	
第14回	個別指導	第14回	
第15回	個別指導	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	体育	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	山﨑絵美子			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	水曜日 2時限		講義室等	校外施設		
	後期			授業形式	実技		

授業目標および概要	成績評価の方法
集団で運動をすることにより基礎体力を維持するとともに、精神的充実感を得る。運動を通して、自己アピールや表現力、コミュニケーション能力を高められるようにする。 近年では社会が利便化するにつれ、人々の運動不足が懸念されている。本授業では運動不足解消の一環となるよう球技を中心としたスポーツを通し学生の運動習慣を継続させる。	出席状況と授業態度により評価する。
	教科書
授業の進め方	特になし
1. 10時55分には直接体育館に集合し、体操着に着替えておくこと(私服不可) 2. 上履きを持参すること	参考書
	特になし

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション ドッヂボール	第1回	
第2回	卓球①	第2回	
第3回	卓球②	第3回	
第4回	卓球③	第4回	
第5回	バドミントン①	第5回	
第6回	バドミントン②	第6回	
第7回	バドミントン③	第7回	
第8回	ソフトバレー①	第8回	
第9回	ソフトバレー②	第9回	
第10回	ソフトバレー③	第10回	
第11回	バスケットボール①	第11回	
第12回	バスケットボール②	第12回	
第13回	バスケットボール③	第13回	
第14回	ドッヂボール①	第14回	
第15回	ドッヂボール②	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	ライティング	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 病院(回復期病棟)での音楽療法 2年 特別養護老人ホームでの音楽療法 6年						
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	304教室		
	後期	月曜日 4時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽療法士試験や就職試験での小論文対策を行う。	出席および提出課題
	教科書
授業の進め方	
課題文を理解し、与えられたテーマに沿って文章を作成。	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	小論文①
第2回		第2回	小論文①
第3回		第3回	討論
第4回		第4回	討論
第5回		第5回	小論文②
第6回		第6回	小論文②
第7回		第7回	討論
第8回		第8回	討論
第9回		第9回	小論文③
第10回		第10回	小論文③
第11回		第11回	討論
第12回		第12回	討論
第13回		第13回	個別指導
第14回		第14回	個別指導
第15回		第15回	個別指導

授業科目区分	基礎科目	担当科目	PC演習	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	木曜日 2時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
卒業論文に必要なWord、Excel、Powerpointの使用法を学び、自由に使いこなせるようにする。	出席と授業態度
	教科書
授業の進め方	
課題を設定しプレゼンテーション形式で発表を行う。	参考書

履修上の注意事項	ノートパソコン使用

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	Wordで文書を作成しよう
第3回		第3回	Wordで文書を作成しよう
第4回		第4回	Wordで文書を作成しよう
第5回		第5回	Wordで文書を作成しよう・発表
第6回		第6回	Powerpointでプレゼンテーション作成
第7回		第7回	Powerpointでプレゼンテーション作成
第8回		第8回	Powerpointでプレゼンテーション作成
第9回		第9回	Powerpointでプレゼンテーション作成・発表
第10回		第10回	Excelで表やグラフを作る
第11回		第11回	Excelで表やグラフを作る
第12回		第12回	Excelで関数を使う
第13回		第13回	Excelで関数を使う
第14回		第14回	Musescoreで楽譜を作る
第15回		第15回	Musescoreで楽譜を作る

授業科目区分	基礎科目	担当科目	音楽療法士筆記試験対策Ⅰ・Ⅱ	単位数	4	選択必修	選択
				時間数	60		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	3年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	月曜日 1時限		講義室等	304教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
日本音楽療法学会認定音楽療法士補試験の問題演習を中心に知識の理解と定着をはかる。	出席および試験
	教科書
授業の進め方	
問題演習と解説を中心にすすめる。	参考書

履修上の注意事項	復習のためのノートを作成する。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	2001年度抜粋問題演習	第1回	2009年度抜粋問題演習
第2回	2001年度抜粋問題演習	第2回	2010年度抜粋問題演習
第3回	2002年度抜粋問題演習	第3回	2011年度抜粋問題演習
第4回	2002年度抜粋問題演習	第4回	2012年度抜粋問題演習
第5回	2003年度抜粋問題演習	第5回	2013年度抜粋問題演習
第6回	2003年度抜粋問題演習	第6回	2014年度抜粋問題演習
第7回	2004年度抜粋問題演習	第7回	2015年度抜粋問題演習
第8回	2004年度抜粋問題演習	第8回	2016年度抜粋問題演習
第9回	2005年度抜粋問題演習	第9回	2017年度抜粋問題演習
第10回	2005年度抜粋問題演習	第10回	2018年度抜粋問題演習
第11回	2006年度抜粋問題演習	第11回	2019年度抜粋問題演習
第12回	2006年度抜粋問題演習	第12回	2020年度抜粋問題演習
第13回	2007年度抜粋問題演習	第13回	2021年度抜粋問題演習
第14回	2007年度抜粋問題演習	第14回	2022年度抜粋問題演習
第15回	2008年度抜粋問題演習	第15回	2023年度抜粋問題演習

授業科目区分	基礎科目	担当科目	応接・マナー	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	近藤真知子			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	音楽療法士及び中学校音楽1種、高等学校音楽1種の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 発達障害児への個人音楽療法 9年 障害者支援施設での集団音楽療法 3年 ピアノ・音楽基礎指導歴 20年　医療機関受付・事務歴 20年						
実務経験と授業	医療機関での実務経験を活かして社会人として必要な知識・技能を養う。						
学期区分	前期	火曜日 2時限		講義室等	304教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
一般常識や応接・マナーなど、社会人に必要な知識を高める。	授業態度、筆記試験
	教科書
授業の進め方	ビジネスマナーの解剖図鑑
講義、演習	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	オリエンテーション、社会人のマナーについて	第1回	
第2回	ビジネスマナー①	第2回	
第3回	ビジネスマナー②	第3回	
第4回	ビジネスマナー③	第4回	
第5回	ビジネスマナー④	第5回	
第6回	ビジネスマナー⑤	第6回	
第7回	ビジネスマナー⑥	第7回	
第8回	ビジネスマナー⑦	第8回	
第9回	ビジネスマナー⑧	第9回	
第10回	ビジネスマナー⑨	第10回	
第11回	ビジネスマナー⑩	第11回	
第12回	その他（履歴書・就活マナー等）	第12回	
第13回	その他（履歴書・就活マナー等）	第13回	
第14回	その他（履歴書・就活マナー等）	第14回	
第15回	その他（履歴書・就活マナー等）、まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	保育士対策	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	月曜日 1時限		講義室等	301教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
保育士試験の総合対策を行う。	出席及び授業態度、試験
	教科書
授業の進め方	保育士完全合格テキスト(上)(下) 保育士過去問題集
演習と解説を中心に進める	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	保育の心理学	第1回	
第2回	保育の心理学	第2回	
第3回	保育の心理学	第3回	
第4回	教育原理	第4回	
第5回	教育原理	第5回	
第6回	教育原理	第6回	
第7回	子どもの保健	第7回	
第8回	子どもの保健	第8回	
第9回	子どもの保健	第9回	
第10回	子どもの食と栄養	第10回	
第11回	子どもの食と栄養	第11回	
第12回	子どもの食と栄養	第12回	
第13回	保育実習理論	第13回	
第14回	保育実習理論	第14回	
第15回	保育実習理論	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	保育士模試	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	月曜日 1時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
保育士試験の総合対策を行う。	出席及び授業態度
	教科書
授業の進め方	保育士完全合格テキスト(上)(下) 保育士過去問題集
過去問を中心に進める	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	保育の心理学
第2回		第2回	保育の心理学
第3回		第3回	保育原理
第4回		第4回	保育原理
第5回		第5回	子どもの保健
第6回		第6回	子どもの保健
第7回		第7回	子どもの食と栄養
第8回		第8回	子どもの食と栄養
第9回		第9回	教育原理/社会的養護
第10回		第10回	教育原理/社会的養護
第11回		第11回	子ども家庭福祉
第12回		第12回	子ども家庭福祉
第13回		第13回	社会福祉
第14回		第14回	社会福祉
第15回		第15回	保育実習理論

授業科目区分	基礎科目	担当科目	介護概論	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	樋口瑠理子			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年・3年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	金曜日 3時限/4時限		講義室等	301教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
介護職員初任者研修の資格取得および、それにかかる知識・技術などの習得。	授業態度、実習記録、修了評価（筆記試験）
	教科書
授業の進め方	介護職員初任者研修テキスト （一般社団法人長寿社会開発センター）
講義、演習、実習	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	職務の理解、介護の基本	第1回	
第2回	介護における尊厳の保持・自立支援	第2回	
第3回	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	第3回	
第4回	介護におけるコミュニケーション技術	第4回	
第5回	老化の理解、認知症の理解、障害の理解	第5回	
第6回	こころとからだのしくみと生活支援技術①	第6回	
第7回	こころとからだのしくみと生活支援技術②	第7回	
第8回	こころとからだのしくみと生活支援技術③	第8回	
第9回	こころとからだのしくみと生活支援技術④	第9回	
第10回	こころとからだのしくみと生活支援技術⑤	第10回	
第11回	こころとからだのしくみと生活支援技術⑥	第11回	
第12回	総合生活支援技術演習①（実習込）	第12回	
第13回	総合生活支援技術演習②（実習込）	第13回	
第14回	総合生活支援技術演習③（実習込）	第14回	
第15回	まとめ、修了評価試験	第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	教育原理	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	藤田琴			受講学科	音楽療法士学科		
				学年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等	301教室		
	後期	火曜日 1時限		授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
音楽療法士として人と接する際、共感的な態度とともに教育的な視点が欠かせない。本講座では教育の基本原理を著名な教育思想家から学びつつ、今日の教育の現状について解明していく。また、教育思想と音楽療法臨床の接点を探り、主に児童領域における音楽療法の展開へ活用する。	授業態度、試験
	教科書
授業の進め方	保育士完全合格テキスト2025年版（下）
講義	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション
第2回		第2回	教育原理①
第3回		第3回	教育原理②
第4回		第4回	教育原理③
第5回		第5回	教育原理④
第6回		第6回	教育原理⑤
第7回		第7回	まとめ
第8回		第8回	オリエンテーション
第9回		第9回	社会的養護①
第10回		第10回	社会的養護②
第11回		第11回	社会的養護③
第12回		第12回	社会的養護④
第13回		第13回	社会的養護⑤
第14回		第14回	まとめ
第15回		第15回	総まとめ

授業科目区分	基礎科目	担当科目	学会研修	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員	髙橋和奈枝			受講学科	音楽療法士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期			講義室等			
	後期			授業形式			

授業目標および概要	成績評価の方法
学会研修において、音楽療法の最新の知見を学ぶ。	出席および参加態度
	教科書
授業の進め方	
現地でのスケジュールに従う。	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	9月 学会研修 （日本音楽療法学会学術大会）	第1回	
第2回		第2回	
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	

授業科目区分	基礎科目	担当科目	特別講義	単位数	2	選択必修	選択
				時間数	30		
担当教員				受講学科	音楽療法士学科		
				学年	3年		
実務家教員としての経歴							
実務経験と授業							
学期区分	前期	随時		講義室等	304教室		
	後期			授業形式	講義		

授業目標および概要	成績評価の方法
外部講師による授業を企画実施し、新たな学びを得る場とする。	出席と積極的な参加
	教科書
授業の進め方	特になし
講義、ワークショップ他	参考書
	特になし

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	特別講義	第1回	
第2回	特別講義	第2回	
第3回	特別講義	第3回	
第4回	特別講義	第4回	
第5回	特別講義	第5回	
第6回	特別講義	第6回	
第7回	特別講義	第7回	
第8回		第8回	特別講義
第9回		第9回	特別講義
第10回		第10回	特別講義
第11回		第11回	特別講義
第12回		第12回	特別講義
第13回		第13回	特別講義
第14回		第14回	特別講義
第15回		第15回	特別講義